

ミライト・テクノロジーズのCSR活動

株式会社ミライト・テクノロジーズ

1. はじめに

ミライトグループでは、グループで働く全員が拠り所とする考え方「ミライトWAY」に基づき、グループ全体でCSRを推進しています。

基本的な考え方は以下の通りです。

- ・社会の要請や期待に応じて事業を継続させることで、ステークホルダーから長期的な信頼が得られるようにする。
- ・本業に社会や環境などの諸課題への対応を組み込むことで、変化へ対応できる企業にする。
- ・企業として持続可能な社会づくりに貢献することで、存在することを期待されるような「ブランド」にする。

また、社会の関心度とミライトグループにとっての重要性が共に高い以下の3つを重点テーマとしています。

- ・快適な社会のしくみをつくる。まもる。—事業活動による価値創造—
- ・安全・安心な技術力をつくる。まもる。—安全・品質、人材—
- ・社会との信頼をつくる。まもる。—環境保全、地域社会、ガバナンス—

この考え方や重点テーマに基づき、(株)ミライト・テクノロジーズ(以下、当社)は、ミライトグループの一員として、さまざまな社会課

題の解決に取り組んでいます。

本稿では、3つの重点テーマの中から、いくつか具体的な近年の取り組みを紹介します。

2. 快適な社会のしくみをつくる。まもる。—事業活動による価値創造—

(1) 社会インフラ管理のスマート化

日本の多くの社会インフラが更新時期を迎えつつある中、その管理の効率化が重大な社会的課題となっています。当社は、5G(第5世代移動通信システム)、ICT、エネルギーシステムを含む幅広い領域の技術を駆使して、その解決に取り組んでいます。

・水道施設の新たな管理手法

全国の水道事業者は、水需要の減少に伴い水道料金収入の確保に苦しむ一方、施設(特に管路)の更新・耐震化を求められています。また、官民ともに技術者の確保や技術継承が厳しく、生産性向上が事業継続上の課題です。

当社は、(株)栗本鐵工所、(株)フォトラクション、JFEエンジニアリング(株)の各社と共同で、神戸市水道局と連携し、2019年7月1日から2020年6月30日まで研究し、水道管工事管理業務の新たな方法論を開発しました。クラウド上にシステムを構築し、排水管の管種の携帯端末での入力と継手チェックシートの自動作成、工事書類・情報の受発注者間で

のリアルタイム共有、写真整理の自動化と文字情報の電子化、複数の情報・書類の連携による入力作業や突合作業の不要化等を実現しています。

共同研究後、当社は、栗本鐵工所、フォトラクションとともに、photoruction[※]を利用した水道管工事施工管理システム「photoruction water」を、2021年4月20日から販売開始しました(写真1)。

(2) 災害・ウイルスに強いまちづくり

激甚化が懸念される自然災害へ、より円滑に対応するための新しい社会インフラとして、ドローンなどを活用したソリューションを提供しています。また、ドローンを活用した抗菌・抗ウイルスへの取組みを開始しました。



写真1 photoruction waterのタブレット画面

※photoruction…生産性と品質向上を目的とした建設業向けクラウドサービス



図1 ドローン映像リアルタイム配信サービスの概要

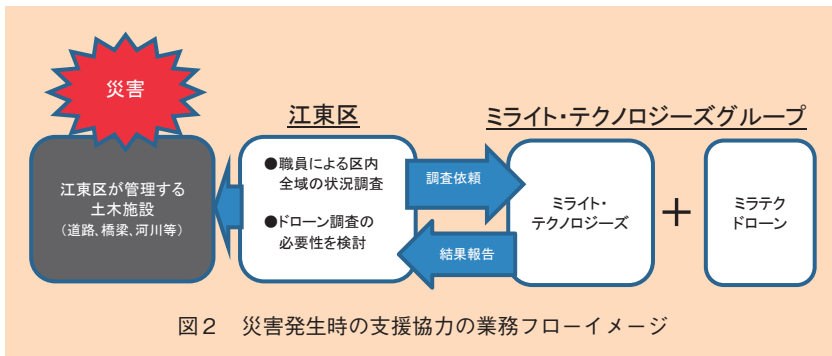


図2 災害発生時の支援協力の業務フローイメージ

・自然災害対応におけるドローンの活用

ドローンの自然災害対応への応用分野は年々拡大しています。ドローン運用の実績を積み重ねてきた当社は、災害時に役立つソリューションの開発に取り組んできました。

2019年9月からは、ドローンを活用した広域運用サービスに、「ドローン映像リアルタイム配信サービス」を追加。(株)ソリトンシステムズが提供するリアルタイム映像伝送システムと、当社が提供するドローン機体およびパイロットを、利用者の要望に応じて一元的に提供します。そして、災害の現場状況をドローンでリアルタイムに撮影し、災害対策本部などのある離れた拠点への映像の伝送や撮影場所の地図上への表示を行います。この機能を活用することで、急な災害発生時でも、河川や山奥等の災害現場の状況を正確かつ鮮明に撮影・伝送することができます(図1)。

また、2020年7月1日には、東京都江東区と「災害時における無人航空機を活用した支援協力に関する協定」を締結しました。災害時に江東区がドローンを活用した土木施設の点検を必要とした場合に、当社と、当社のグループ会社である(株)ミラテックドローン(2020年7月に設立したドローン事業を専門とする新会社)が出動し、区内の土木施設の点検を担当することで都市インフラの早期復旧に貢献することをめざすものです。

江東区では、大学や民間企業と橋梁点検へのドローン活用についての検討を重ねてきました。当社は、江東区に拠点を置くとともに、ドローン事業を行っていることから、江東区のドローンによる橋梁点検の実証実験や勉強会に参加してきました。これまでの取組みの結果、ドローンによる調査が効果的であったと認められたことを受けて、協定の締結に至りました(図2)。

・ドローンによる抗菌・抗ウイルスコーティングサービスの提供開始

ミラテックドローンは、2021年4月1日より、大規模なイベント会場を対象にドローンを活用した抗菌・抗ウイルスコーティングサービスの提供を開始しました。

アフターコロナの大規模なイベント再開に備えて、施設内での接触による新型コロナウイルスの感染拡大を防止するサービスです。毎日行っていた除菌作業を1カ月に1回程度にできるなど、大幅な稼働削減が期待されます。

ミラテックドローンが、ドローンパイロットを育成する研修サービスや広域でのドローン運航支援・代行サービスの提供により培った豊富な経験とノウハウを最大限に生かし、抗菌・抗ウイルスコーティングを行うためのドローンの運用を担当します。

また、(株)サンクレストは、新型コロナウイルスに対して短時間での不活化効果を示すことを確認した「Cu+ブロック」※を製造・提供、東光鉄工(株)は、ドローンの開発をそれぞれ担当します。

本サービスは、劇場、ホール、スタジアム等の大規模なイベント会場、テーマパークや遊園地等のアミューズメント施設、学校、病院、介護施設のエンタランス等、幅広いニーズが想定され、屋内・屋外を問わず、提供することが可能です(写真2)。

※Cu+ブロックとは、(株)サンクレストの一価銅化合物を応用した抗ウイルス・抗菌商品です。



写真2 ドローンによるホール内での溶剤散布模様

3. 安全・安心な技術力をつくる。まもる。—安全・品質、人材—

(1) ダイバーシティ

年齢、性別、国籍、障がいの有無に関わらず、個性を尊重し、もてる能力を最大限に発揮できる職場環境づくりを推進しています。

・女性社員の活躍推進

ミライトグループでは、女性が幅広い分野で能力の発揮やキャリア形成ができるよう、行動計画を策定するとともに各社で課題を分析し、新卒採用の女性比率や女性管理職比率の増加、女性の職域拡大等を中心に目標を設定し、取り組んでいます。あわせて、ワーク・ライフ・バランスや両立支援による就労環境の整備に取り組んでいます。

・キャリアと育児・介護の両立支援

社員が長く安心して働き続けられるように、子どもが3歳に達するまで取得できる育児休業のほか、小学校3年生修了まで利用できる短時間勤務制度を設けるなど、出産や育児、介護をはじめとするライフイベントにあわせて活用できる制度を、法で定める基準を上回る内容で整備しています。女性社員の育児休業取得率は100%で、男性社員の育児休業など取得率は7割を超えています。取得率の維持・向上に向け、取り組みを進めるとともに、育児休職者がスムーズに復職し活躍できるよ

う、サポート施策を充実させています。

また、当社では、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けた証しである「くるみんマーク」を取得しました。



・「えるぼし」の認定を取得

「えるぼし」の認定とは、女性の職場での活躍を推進するための行動計画を策定し、届け出た企業のうち、取組みの実施状況などが優良な企業を厚生労働大臣が認定する制度で、「えるぼし」は認定マークの愛称です。当社は、5つの評価項目「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」のすべての項目で認定基準を満たし、最高位である3段階目の認定を取得しています。



(2) 人材育成

社員1人ひとりの成長を幅広い視点から支援することによって、将来を支える人的基盤を計画的に強化しています。

・5G向け訓練用通信鉄塔施設の開設

当社は2019年11月に、5Gの本格展開に備えて、西日本で初となる訓練用通信鉄塔施設を、関西ハイパーテクノポート（神戸市東灘区、



写真3 5G向け訓練用通信鉄塔施設

六甲アイランド内)に開設しました。

この施設は、技術者に対して高所におけるアンテナ設備、無線装置、配線設備の工事・保守を、正確かつ安全に行えるマルチスキル（有線・無線）の習得を目的としています。

5G向けの研修を積極的に実施することで、固定系・無線系通信設備について工事から保守までを担える技術者を年間180名育成する予定です。今後はさらに、グループ会社やパートナー会社の技術者のマルチスキル化を図ることにより、西日本エリアを中心に工事から保守を担える技術者を育成する場として利用展開を進めていく予定です（写真3）。

4. 社会との信頼をつくる。まもる。—環境保全、地域社会、ガバナンス—

(1) 環境保全

日々の事業活動における使用エネルギー・CO2排出量や廃棄物排出量を着実に削減するとともに、開発案件のライフサイクルにおける環境影響やサプライチェーンの環境負荷の抑制も進めています。

・建設副産物のリサイクル

各工事の現場で発生する建設副産物を最小限にし、発生したものには



写真4 ECOドラム

再生利用の用途を見つける取組みを継続的に行っています。その一環として、ワイヤー（鋼然り線）巻き付けドラムを、使い捨ての木製ドラムから、再利用ができる「ECOドラム」に転換する通信建設業界の取組みに2008年から着手し、現在では一部のサイズを除き、ECOドラムを使用しています（写真4）。

・里山保全活動

2003年から（公財）大阪みどりのトラスト協会の里山保全活動に社内や協力会社から参加を募り、ボランティアとして参加しています。前年度に引き続き、2019年度も大阪府茨木市にある「車作（くるまつくり）の森」において、植樹林を良好な状態に再生・維持するための笹刈り作業や間伐作業に参加し、自然環境・生物多様性の保全やみどり豊かで快適な環境づくりに取り組みました（写真5）。

(2) 地域社会への貢献

地域社会の一員として、より暮らしやすく、活気のある地域をつくる取組みを、積極的かつ継続的に企画・推進しています。

・祭礼や清掃活動への参加

日本各地の伝統的な祭りは、社会



写真5 「車作の森」における作業後の模様

構造の変化とともに存続が難しくなりつつあります。ミライトグループ各社（当社含む）では、地域の祭礼への参加を社員に呼びかけています。神輿の担ぎ手になる場合もあります。また、地域での清掃活動を継続的に行っています（写真6）。

・豊洲フェスタへの参加

ミライトグループは、東京都江東区主催の地域イベント「豊洲フェスタ」へ、本社を豊洲に移転した2010年より毎年参加しています。2019年度は、グループ各社（当社含む）より総勢約65名のボランティアスタッフが参加し、手作りの空気砲ゲーム、バルーンアートの実演、作りたてのポップコーンを提供しました（写真7）。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、地域の祭事やイベントが中止や縮小となりましたが、当社では引き続き、感染状況を踏まえ、取り組んでいきます。

5. おわりに

冒頭でもお伝えしました通り、3つの重点テーマの中から、いくつか具体的な近年の取組みを紹介しましたが、それ以外にも幅広くさまざま



写真6 御霊神社夏祭り



写真7 豊洲フェスタ模様

な活動をしています。

当社のその他のCSR活動およびミライトグループのCSR活動につきましては、「コーポレートレポート2020」（https://www.mirait.co.jp/csr/data/mirait_csr_2020.pdf）およびCSRサイト（<https://www.mirait.co.jp/csr/>）をご覧ください。

世界的に、SDGsやESG投資を巡る取組みが加速しており、また、昨年、日本政府が「2050年カーボンニュートラル」を宣言したりと、企業の取組みに対する社会からの要請がより一層高まっています。当社は、総合エンジニアリング&サービス会社として、その強みを活かしてさまざまな社会課題の解決に取り組むと同時に、社会の一員として持続可能な社会の実現に貢献してまいります。